



本日はご多忙の中、弊社2020年度第1四半期決算説明会にご参加賜り、誠にありがとうございます。

また、平素より弊社のIR活動へのご協力に心より御礼申し上げます。

では、2020年度第1四半期の決算説明会を開始致します。

当第1四半期決算のトピックス

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



- 売上高はカーエレクトロニクス向けやスマートフォン向けの売上が大きく減少したことにより、前年同期比8.6%の減少となったものの、計画をおおむね達成。
- 生産高は、供給リスクへの備えや生産平準化を目的とした在庫積み上げにより、当初計画比で増加。
- 営業利益は製品価格の値下がりや為替変動の影響などにより前年同期比17.9%の減益。営業利益率は同比1.8ポイント低下の15.7%。上期の業績予想に対する進捗率は53%。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

2

まず初めに、当第4四半期決算のトピックスです。

売上は3,268億円、4月予想3,310億円から▲42億円・▲1%の未達となりました。新型コロナウイルスで幅広い市場・製品で需要の弱さが見られ前四半期比▲10%となりましたが、おおむね予想通りの着地となりました。

生産については、第1四半期の着地は3,550億円と4月予想の3,360億円より上振れました。新型コロナウイルスによる供給リスクへの備えや、スマートフォン新モデルのピーク時に向けた生産平準化により、製造高は想定から190億円上振れました。

営業利益は513億円で想定より高い水準で着地しました。

要因としては、想定より製造高が増加し操業度益が生じたことや、移動制限等の影響で出張関連費用や修繕費など第1四半期では固定費が全般的に減少し、Q2以降に先送りされたことが挙げられます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響

<2020年4月1日以降、生産を停止した拠点> (2020年7月31日 現在)

生産拠点	生産停止期間
Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.(フィリピン)	3月17日～5月17日
Murata Electronics (Malaysia) Sdn.Bhd.(マレーシア)	3月18日～5月3日 (部分操業)
福井村田製作所(福井県)	4月5日～4月7日
出雲村田製作所(島根県)	4月14日～4月16日
富山村田製作所(富山県)	4月25日～4月26日
村田製作所八日市事業所(滋賀県)	7月8日～7月10日
岡山村田製作所(岡山県)	7月15日～7月16日

- ・ フィリピンとマレーシアは想定通りに再稼働。岡山村田製作所と村田製作所八日市事業所の生産停止が業績に与える影響は軽微です。
- ・ 生産拠点については、従業員及び協力会社社員の健康と安全を第一に、感染防止対策を徹底した上で稼働しています。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

3

5月以降に発生した影響としましては、フィリピン・マレーシア・八日市・岡山の生産拠点で一時的に生産を停止する期間が生じましたが、影響は軽微です。

2020年度第1四半期 業績概要

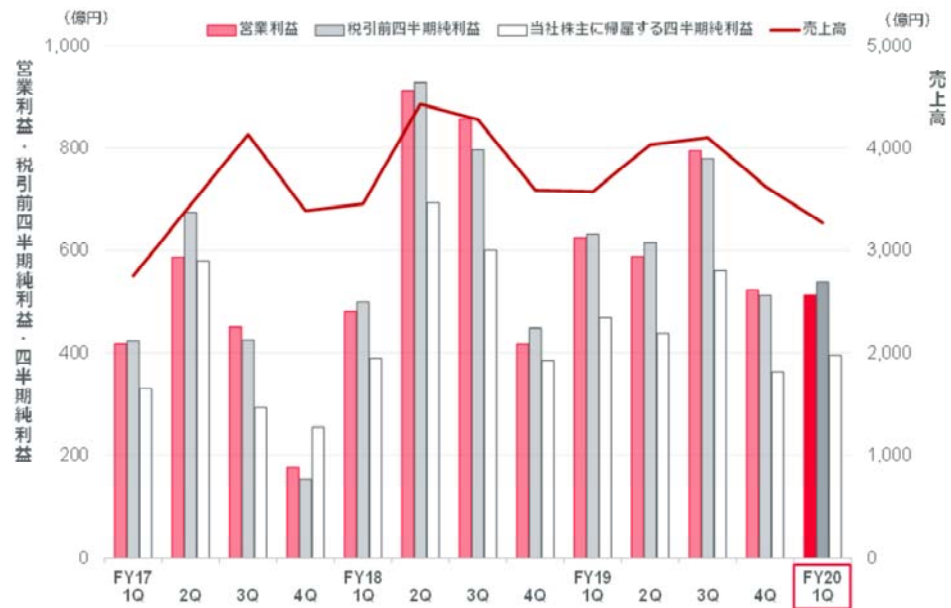
2020年4月～2020年6月
第1四半期連結会計期間

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

業績概要

業績推移（四半期）

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

5

直前四半期比では、売上の減少に比べて生産高の減少は少なく、固定費は圧縮されました。その結果、営業利益の減少は小幅に留まりました。

	2019年度 第1四半期		2019年度 第4四半期		2020年度 第1四半期		前年同期比 20Q1/19Q1		直前四半期比 20Q1/19Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	3,576	100.0	3,629	100.0	3,268	100.0	▲308	▲8.6	▲361	▲9.9
営業利益	626	17.5	524	14.4	513	15.7	▲112	▲17.9	▲10	▲1.9
税引前当期純利益	632	17.7	513	14.1	539	16.5	▲93	▲14.7	+27	+5.2
当社株主に帰属する 当期純利益	468	13.1	362	10.0	396	12.1	▲72	▲15.5	+34	+9.2
為替 (円/USD)	109.90		108.97		107.62					

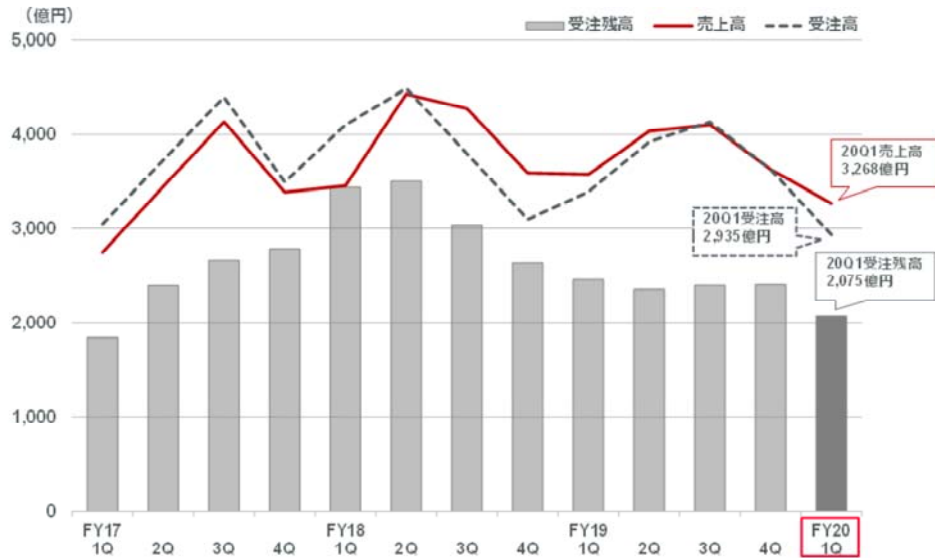
- 売上高は、コンデンサが基地局向けやP C向けで堅調であったものの、カーエレクトロニクス向けで大幅に落ち込んだほか、樹脂多層基板やリチウムイオン二次電池がスマートフォン向けで大きく減少したことにより、前年同期比で減収。
- 営業利益は、コストダウン活動による増益要因はあったものの、製品価格の値下がりや為替変動の影響などの減益要因もあり、前年同期比で大幅な減益。

直前四半期比では、為替影響も円高であったものの、営業利益の減少は▲10億円に留まりました。

本日(7/31)もドル円が104円と円高が進行しております。第1四半期としては107円で影響は軽微でしたが、このまま円高が進行すれば第2四半期以降に業績に影響を及ぼす可能性があります。

売上・受注・注残推移（四半期）

COVID-19の影響による市況悪化や2019年度第4四半期に生じた顧客での前倒し取り込みの反動減などにより売上・受注は前年同期比・前四半期比共に大幅な減少



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

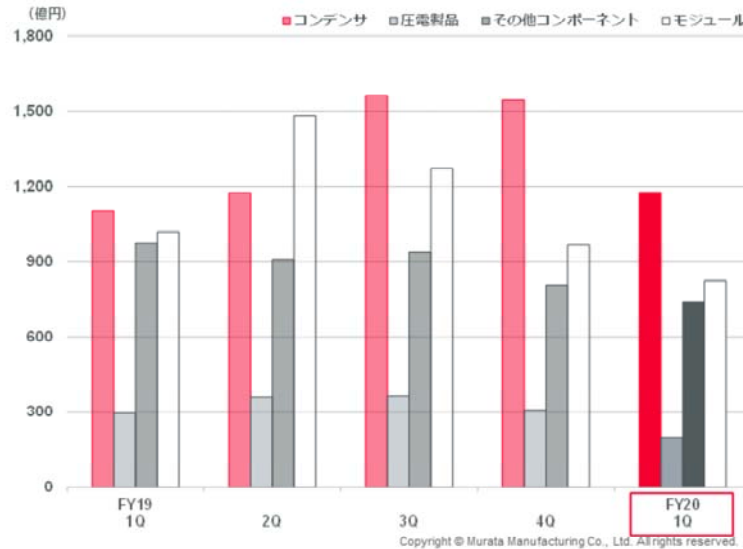
7

直前四半期比では▲19%の受注減少となりました。コロナウィルスの影響もあり、幅広い製品で需要減少が見られました。また、2019年度第4四半期で、顧客が新型コロナウィルスに備え部品在庫確保のため発注を増やした反動減の影響もありました。

注残金額は2,075億円で、直前四半期末比で▲327億円(▲13.6%)となりました。

製品別受注高推移

- ・ 前四半期比では、COVID-19の影響により、幅広い品種で減少。
- ・ 前年同期比では、コンデンサのみ増加。COVID-19による減少は見られたものの、前年同期に流通在庫の調整で受注が少なかったため。
- ・ 4～5月を底に6月以降回復基調。



直前四半期比では、製品別にみると、Q4にまとめ発注がありましたコンデンサの減少が大きく出ております。その他にコンデンサ以外でも、表面波フィルタや樹脂多層基板、高周波モジュールなど幅広い製品で需要の減少が見られました。

	2019年度 第1四半期		2019年度 第4四半期		2020年度 第1四半期		前年同期比 20Q1/19Q1		直前四半期比 20Q1/19Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,377	38.6	1,382	38.2	1,345	41.2	▲32	▲2.4	▲37	▲2.7
圧電製品	314	8.8	323	8.9	264	8.1	▲50	▲16.0	▲60	▲18.4
その他コンポーネント	924	25.9	792	21.9	774	23.7	▲150	▲16.2	▲19	▲2.4
モジュール	952	26.7	1,121	31.0	879	27.0	▲73	▲7.6	▲242	▲21.6
製品売上高計	3,567	100.0	3,619	100.0	3,262	100.0	▲305	▲8.6	▲357	▲9.9

直前四半期比、前年同期比共にすべての製品で売上が減少しております。

コンデンサ (直前四半期比▲2.7%)	▲チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) PC・サーバー・ゲーム機向けが増加したものの、自動車・基地局・スマートフォン向けが減少
圧電製品 (直前四半期比▲18.4%)	▲表面波フィルタ スマートフォン向けで数量が減少したことにより減収
その他コンポーネント (直前四半期比▲2.4%)	○リチウムイオン二次電池 ゲーム機やPC向けで増加 ○インダクタ (コイル) カーエレクトロニクス向けは減少したものの、PC向けで増加 ▲センサ/EMI除去フィルタ カーエレクトロニクス向けで大きく減少
モジュール (直前四半期比▲21.6%)	▲高周波モジュール (通信機器用モジュール・多層デバイスモジュール) スマートフォンの新モデル向けの取り込みが減少したことにより大きく減少 ▲コネクティビティモジュール (近距離無線通信モジュール) / 樹脂多層基板 ハイエンドスマートフォン向けで大きく減少

ほとんどの製品が直前四半期比で減少しておりますが、その他コンポーネントの一部の製品の売上は増加しております。

その他コンポーネントのリチウムイオン二次電池は新型コロナウイルスの影響による巣ごもり、在宅勤務に関連する需要が増加しております。また、インダクタについてもPC向けの需要が増加しております。

	2019年度 第1四半期		2019年度 第4四半期		2020年度 第1四半期		前年同期比 20Q1/19Q1		直前四半期比 20Q1/19Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	169	4.7	116	3.2	154	4.7	▲15	▲8.7	+38	+32.4
通信	1,639	46.0	1,900	52.5	1,592	48.8	▲46	▲2.8	▲308	▲16.2
コンピュータ及び関連機器	586	16.4	532	14.7	680	20.9	+94	+16.1	+148	+27.8
カーエレクトロニクス	668	18.7	644	17.8	428	13.1	▲240	▲35.9	▲216	▲33.5
家電・その他	506	14.2	426	11.8	407	12.5	▲99	▲19.5	▲19	▲4.4
製品売上高計	3,567	100.0	3,619	100.0	3,262	100.0	▲305	▲8.6	▲357	▲9.9

(注) 当社推計値に基づいております

AV (直前四半期比+32.4%)	○ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池やコンデンサが増加
通信 (直前四半期比▲16.2%)	▲スマートフォン向けでコネクティビティモジュール、高周波モジュール、樹脂多層基板、表面波フィルタなどが減少 ▲基地局向けでコンデンサが減少
コンピュータ及び関連機器 (直前四半期比+27.8%)	○リモートワークによるPC需要の高まりを受け、コネクティビティモジュール・インダクタ・コンデンサ等が増加 ○サーバー向けでコンデンサが増加
カーエレクトロニクス (直前四半期比▲33.5%)	▲自動車の販売台数が大きく減少したことにより、コンデンサ・センサ・EMI除去フィルタ・インダクタなどが大きく減少

(注) 当社推計値に基づいております

ほとんどの用途で直前四半期比でマイナスでしたが、巣ごもり需要でのAV機器(ゲーム機関連など)向けや、リモートワークに関連してPCやサーバーなどは好調に推移しました。

受注・売上は4月～5月を底に、6月から回復傾向が見られます。この傾向がどこまで続くかは不透明ではありますが、現時点では回復の兆しが見られます。

		2019年度 第1四半期		2020年度 第1四半期		増減	
		(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンポーネント	売上高	2,717	100.0	2,456	100.0	▲262	▲9.6
	事業利益	675	24.8	589	24.0	▲86	▲12.8
モジュール	売上高	952	100.0	879	100.0	▲73	▲7.6
	事業利益	79	8.3	69	7.9	▲10	▲12.2
その他	売上高	169	100.0	144	100.0	▲25	▲14.9
	事業利益	15	8.7	19	13.4	+4	+30.3
消去又は本社部門	売上高	▲264	-	▲211	-	+52	-
	本社部門費	▲143	-	▲164	-	▲21	-
連結	売上高	3,576	100.0	3,268	100.0	▲308	▲8.6
	営業利益	626	17.5	513	15.7	▲112	▲17.9

- ・ コンポーネント コンデンサ・表面波フィルタ・リチウムイオン二次電池などの売上が減少したことにより、全体として減収減益
- ・ モジュール 樹脂多層基板やコネクティビティモジュールなどの売上が減少したことにより、全体として減収減益

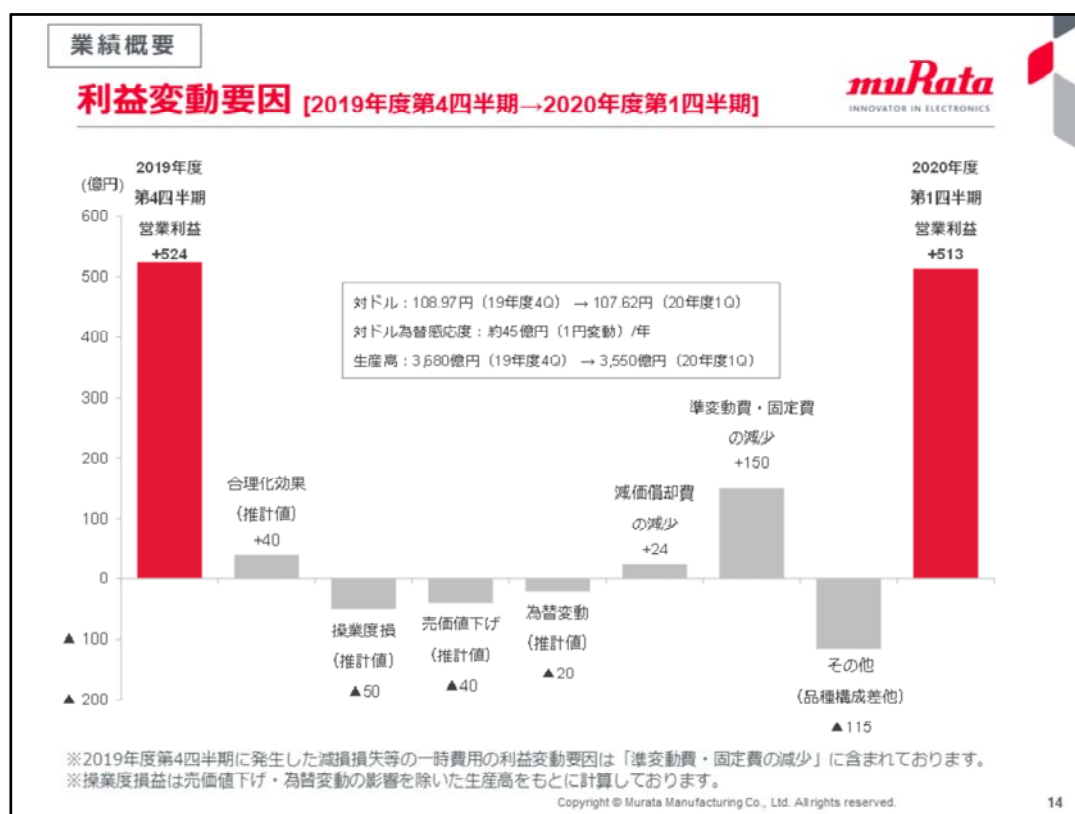
Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

13

連結では、前年同期比で減収減益となりました。
コンポーネントとモジュールに分けた場合も傾向は同じく、減収減益になりました。

生産高についても2019年度第1四半期は3,630億円で、今年度第1四半期も3,550億円と減少しており、その結果、営業利益も減少しております。

ただ、前年同期比では固定費を減らすことができましたので減益幅を若干少なめに抑えることができました。



直前四半期比の比較になります。

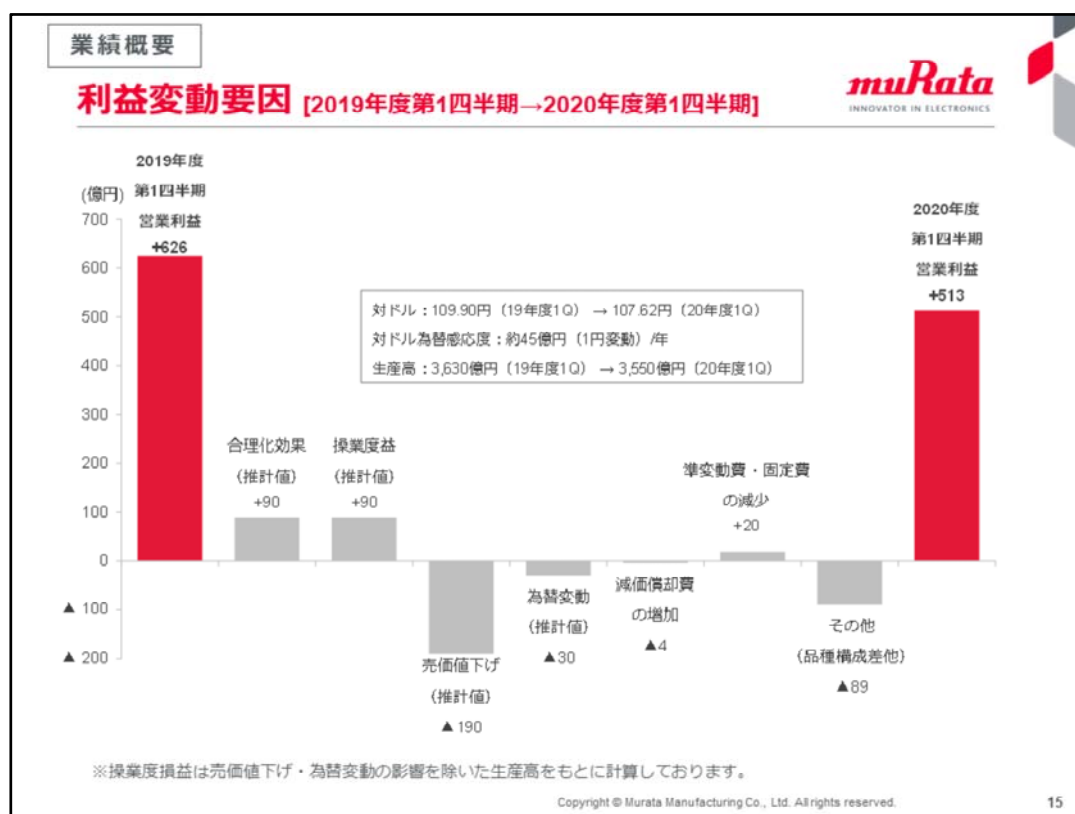
減価償却費の減少が増益要因で出ている点が例年と異なります。

当第1四半期に設備投資を抑えたことや昨年中に償却が完了した固定資産が多かったことが背景にあります。

準変動費・固定費の減少の数字が大きい理由は、2019年度第4四半期に買収子会社VIOSののれんの減損、不要資産の廃棄等が発生したことや、一部の費用の発生が第2四半期以降へ繰り延べされた影響によるものです。

また、全社的に利益率が下がっていることや在庫増による利益率の低下、個別製品内で付加価値の高い製品の減少などの理由により、その他(品種構成差等)が減益方向に働きました。

新型コロナウイルスの影響で売上高が減少するなか、サプライチェーンの混乱に備え在庫を積んだ結果、操業度損は小幅にとどまりました。



前年同期比では売価値下げが進行しました。

操業度は売価値下げを戻したベースで計算した結果、操業度益として出ております。

標準変動費・固定費の減少が少ないように見えますが、全社的な固定費は増加しておりますので、固定費の圧縮は小幅に留まっております。

その他品種構成がマイナスの背景としては、14ページと同じです。

キャッシュフロー

	2019年度 第1四半期 (億円)	2020年度 第1四半期 (億円)	増減 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	498	456	▲42
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 614	▲ 468	+146
財務活動によるキャッシュフロー	263	▲ 122	▲384
為替変動による影響	8	▲ 7	▲15
現金及び同等物残高	2,333	2,882	+550
フリーキャッシュフロー	▲ 116	▲ 12	+104
固定資産の取得	▲ 529	▲ 477	+52
減価償却費	336	340	+4

- ・ 前年同期比では減益ではあるものの、設備投資額が減少したことで、フリーキャッシュフローは増加

投資活動によるキャッシュフローでは、設備投資額が抑えられたこともあり、プラスに転じております。

財務活動によるキャッシュフローは、支払配当金額の増加はあるものの、借入額の抑制でマイナスとなりました。

現金及び同等物残高が3,000億円近くになっておりますが、このような状況でもあり、多少手厚めに保有して事業運営を行っていく予定です。

2020年度 業績予想
(2020年4月～2021年3月)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2020年度 業績予想

	2019年度 実績		2020年度 上期予想		2020年度 下期予想		2020年度 通期予想		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	15,340	100.0	6,810	7,490	14,300	100.0	▲1,040	▲6.8		
営業利益	2,532	16.5	970	1,130	2,100	14.7	▲432	▲17.1		
税引前当期純利益	2,540	16.6	980	1,140	2,120	14.8	▲420	▲16.5		
当社株主に帰属する 当期純利益	1,830	11.9	693	807	1,500	10.5	▲330	▲18.0		
為替 (円/USD)	108.75				107.00					

※ 4月公表値の見直しは行っておりません。

見直しを行っていないものの、4月末業績予想公表時見通からの市場環境変化等もあり、業績予想の変更必要性については社内で検証を行っております。

結果として通期予想の見直しを行う必要はないと判断しました。

為替は107円で予想しておりますが、足元では104円まで円高が進行しております。予想と乖離がございますが、今後も107円程度で推移するのであれば今年度の着地から大きな乖離は発生しないと考えております。

決算発表時時点では、売上・生産・費用発生の見通しに大きな変動はないため、業績見通しの修正は行っておりません。

第2四半期以降に懸念される市場環境の変動要因は以下の通りです。

ダウンサイド	基地局台数の下振れ、自動車・パワーツール市場の回復スピード鈍化 対象製品：コンデンサ・リチウムイオン二次電池・センサなど
アップサイド	リモートワーク・オンライン教育を背景としたタブレットPCの台数増加 対象製品：コネクティビティモジュール、コンデンサなど
アップサイド・ダウンサイド	スマートフォンの販売台数や市場シェアの変動 対象製品：高周波モジュール・コンデンサなど

※業績見通しに修正の必要性が生じた場合は速やかに開示いたします。

業績予想の見直しは行いませんが、市場環境の変動リスクとしてダウンサイド、アップサイドそれぞれの要因があるとみております。

また、第1四半期に抑制されていた固定費が今後どの程度増えるかといった点も視野に入れた上で業績予想の修正は必要ないというのが現時点での弊社の判断になります。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。



補足

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

補足

財務データ(1/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

	2017年度				2018年度				2019年度				2020年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	2,750	3,447	4,135	3,387	3,455	4,429	4,276	3,590	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268
営業利益	418	587	451	176	482	913	856	417	626	588	795	524	513
税引前四半期純利益	424	674	426	154	499	928	797	449	632	616	780	513	539
当社株主に帰属する 四半期純利益	331	579	294	256	390	693	601	385	468	439	561	362	396
設備投資	613	716	899	839	777	788	727	624	529	620	814	854	402
減価償却費	277	329	398	413	269	305	323	347	336	346	357	364	340
研究開発費	215	229	238	257	260	243	251	262	261	253	247	264	248
対ドルレート(円)	111.10	111.04	112.98	108.30	109.07	111.46	112.90	110.21	109.90	107.35	108.76	108.97	107.62

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

23

補足

財務データ(2/3)



INNOVATOR IN ELECTRONICS

		2017年度				2018年度				2019年度				(億円)
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	2020年度
製品別売上高	コンデンサ	963	1,127	1,269	1,139	1,265	1,472	1,583	1,423	1,377	1,378	1,457	1,382	1,345
	圧電製品	375	410	389	346	381	385	321	300	314	319	336	323	264
	その他コンポーネント	546	730	1,055	892	938	1,083	992	909	924	986	928	792	774
	コンポーネント計	1,885	2,267	2,712	2,377	2,583	2,939	2,896	2,632	2,615	2,683	2,722	2,498	2,382
	モジュール	858	1,172	1,414	995	865	1,482	1,371	950	952	1,343	1,370	1,121	879
売上高計		2,743	3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262
用途別売上高	AV	137	172	195	162	173	197	175	150	169	177	148	116	154
	通信	1,367	1,900	2,311	1,619	1,574	2,355	2,133	1,546	1,639	2,121	2,261	1,900	1,592
	コンピュータ及び関連機器	464	519	527	513	564	653	680	595	586	606	581	532	680
	カーエレクトロニクス	446	475	533	547	596	630	660	685	668	661	662	644	428
	家電・その他	329	372	560	531	541	586	619	606	506	460	439	426	407
売上高計		2,743	3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262
地域別売上高	南北アメリカ	246	340	563	390	389	763	751	456	472	579	458	387	286
	ヨーロッパ	227	235	292	309	329	322	332	415	361	317	304	338	212
	中国	1,499	2,010	2,344	1,756	1,810	2,315	2,161	1,657	1,727	2,081	2,372	1,921	1,988
	アジア・その他	549	607	590	615	603	664	642	684	630	696	608	646	487
	海外計	2,521	3,192	3,789	3,070	3,131	4,064	3,886	3,212	3,190	3,673	3,743	3,293	2,972
日本		222	247	337	302	318	357	380	369	378	353	349	326	289
売上高計		2,743	3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

24

		2017年度				2018年度				2019年度				(億円)
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	2020年度
コンポーネント	売上高	1,972	2,364	2,824	2,480	2,686	3,056	2,982	2,676	2,717	2,788	2,852	2,625	2,456
	事業利益	440	569	721	446	626	875	849	772	675	501	689	631	589
モジュール	売上高	858	1,172	1,414	995	865	1,482	1,371	950	952	1,343	1,370	1,121	879
	事業利益	89	121	▲157	▲166	▲5	169	140	▲159	79	179	219	17	69
その他	売上高	177	240	201	242	244	336	208	236	169	154	140	129	144
	事業利益	18	27	22	27	29	34	22	21	15	16	12	15	19
消売又は本社部門	売上高	▲258	▲329	▲304	▲330	▲340	▲445	▲285	▲272	▲264	▲251	▲260	▲247	▲211
	本社部門内	▲129	▲130	▲135	▲131	▲168	▲165	▲155	▲216	▲143	▲108	▲125	▲139	▲164
連結	売上高	2,750	3,447	4,135	3,387	3,455	4,429	4,276	3,590	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268
	営業利益	418	587	451	177	482	913	856	417	626	588	795	524	513